

チェロ・ソナタ・シリーズ(全10回)第8回

山崎伸子
チェロ・リサイタル
with
小菅優 (ピアノ)

Nobuko Yamazaki
Cello Recital
with Yu Kosuge, Piano

ベートーヴェン:「魔笛」の主題による7つの変奏曲 変ホ長調 WoO.46
L. v. Beethoven: Sieben Variationen für Klavier und Violoncello in Es-Dur WoO46,
über das Thema "Bei Männern, welche Liebe fühlen" aus Mozarts Oper "Die Zauberflöte"

バッハ:無伴奏チェロ組曲 第5番 ハ短調 BWV1011
J. S. Bach: Suite Nr.5 für Violoncello solo c-moll, BWV1011

ブリテン:チェロ・ソナタ ハ長調 op.65
B. Britten: Sonata for cello and piano in C Major, op.65

ショスタコーヴィチ:チェロ・ソナタ ニ短調 op.40
D. Shostakovich: Sonata for cello and piano in D minor, op.40

2014年11月28日(金) 19時開演

津田ホール JR千駄ヶ谷駅前・都営大江戸線国立競技場駅A4出口
駐車場はご利用いただけません。

全席指定:一般4,000円・学生2,000円 ◎7月22日(火)前売開始

◎チケットお取扱い:

津田ホールチケットセンター 03-5355-1299 / カジモト・イープラス 0570-06-9960

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:238-018) / CNプレイガイド 0570-08-9990

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 / ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

◎お問合せ:津田ホール 03-3402-1851

主催:津田塾大学
アーティストマネジメント:KAJIMOTO
コンサートマネジメント:ミリオンコンサート協会



Tsuda Hall



©Manus Borggave

世紀を超えて、時代の空気を

山崎伸子

シリーズも8年目は、小菅優さんとの再会です。シューマン、ベートーヴェン、メンデルゾーンで2011年に初めてご一緒しましたが、あんなに楽しい演奏会はめったにないものです。デュオとしての燃焼度も高く、自由に弾けました。今回は2度目の共演ですから、いっしょに音楽を創っていく二人の関係のなかで、どれだけ新しい世界を掘られるかが楽しみです。

ベートーヴェンの「『魔笛』の主題による変奏曲」は、まさにオペラ的な、おしゃべりな魅力に溢れた曲です。小菅さんのピアノはチャーミングで、なんとも言えない愛らしい魅力が感じられ、対話が楽しみです。私が留学から帰国して初めてのリサイタルで最初に弾いた曲でもあります。骨格に余分のものをつけずに音楽を語っていかうと思います。

「こうでなければならぬ」というベートーヴェンとは違って、バッハはなんでも許されるだけに本当に難しい。精神性も人類愛も、バッハにとっては日々の生活のなかにあるあたりまえのこと、ふつうの営みのなかの感情でした。

ハ短調組曲(第5番)については、フルニエ先生もそうでしたが、かつてのヴィルトゥオーゾは通常の調弦(A-D-G-C)の強い緊張のなかで演奏しました。ですが、本来この曲でとる

べき調弦(G-D-G-C)で弾くと、相応しいテンポが導かれ、深刻に悩んで重たい荷物を負っていくのではなく、自由な音が出て、響きも柔らかくなります。

プログラム後半は、20世紀を生きたブリテンとショスタコーヴィチ。感情や主観といったことを超えて、作品はその時代の空気感を鮮やかに映し出します。

ブリテンのソナタは1961年に初演されましたが、私が生まれて数年後のことで、国こそ違いますが、ノスタルジーというか、懐かしさというか、時代を生きてきた同じにおいを感じます。いわゆる現代曲ではなく、不協和音にしてもどこか澄んでいる。戦後の傷跡、死者への弔いも出てくるし、私の父がロシア抑留されたことも個人的に重なってきます。

そういう時代の空気をいかに忘れないでこれから生きていくか。想像力豊かな小菅さんとは、世代を超えて、こうした空気を共有できたらと思います。

ショスタコーヴィチのニ短調ソナタは20代後半の作で、私自身が20代で弾いたときは、ヴィオラ・ソナタと比べるとどうにも若い曲に思えましたが、生きていくだけで生命力があるようなことが、いまとなっては強い魅力に思えます。リズムやパワー、音色の変化、フィナーレにのぞくユーモアなども、自分の主張をお互いはっきりと出して演奏したいと思います。

(取材・構成/青澤隆明)

山崎伸子 (チェロ)

広島生まれ。桐朋女子高等学校音楽科、同大学音楽学部卒業。齋藤秀雄、レイヌ・フランショ、堤剛、安田謙一郎、藤原真理各氏に師事。第1回民音室内楽コンクール第1位、第44回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位。卒業後、文化庁海外派遣研修員として、ジュネーヴでピエール・フルニエに師事。帰国後は日本国内の主要オーケストラとの共演、リサイタル、また、イギリス室内管、スイス・ロマンド管、バンベルク響のソリストに選ばれるなど活躍を続けている。2007年より10年にわたり津田ホールでチェロ・ソナタ・シリーズを開催。4枚目のCDが第49回レコード・アカデミー賞<室内楽曲部門>を受賞(共演:野平一郎)。1987年「村松賞」、「グローバル音楽賞第1回奨励賞」受賞。2012年度『東燃ゼネラル音楽賞』(旧:エクソンモービル音楽賞)奨励賞受賞。現在、桐朋学園大学特任教授、東京藝術大学名誉教授。



©Akira Muro



©Marco Bengueve

小菅 優 (ピアノ)

高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニスト。05年カーネギー・ホールで、翌06年ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。10年ザルツブルク音楽祭で、ポゴレリッチの代役としてヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演。12年紀尾井シンフォニエッタ(指揮:T.フィッシャー)の米国ツアーに参加。13年服部譲二指揮ウィーン室内管と共演。13年ロンドン ウィグモア・ホールでリサイタル・デビュー。10年より東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行なっている。録音は、最新盤の「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ集第3巻『自然』」を含む13枚のCDをソニーよりリリース。第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオーケストラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。14年第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

山崎伸子 チェロ・ソナタ・シリーズ DISC

●11月25日発売

「山崎伸子チェロ・リサイタルVol.7」ウィレム・ブロンズ(ピアノ)
 ベートーヴェン:チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 op.102-1
 ブラームス:チェロ・ソナタ 第1番 ホ短調 op.38
 フランク:ソナタ イ長調(ヴァイオリン・ソナタ)
 (ライヴ・ノーツ CD番号未定 ¥2,700+税)

「山崎伸子 チェロ・リサイタル」《好評発売中》
 Vol.1 ピアノ=長岡純子(ライヴ・ノーツ WWCC-7584)
 Vol.2 ピアノ=ヴァディム・サハロフ(同上 WWCC-7620)
 Vol.3 ピアノ=長岡純子(同上 WWCC-7663)
 Vol.4 ピアノ=野平一郎(同上 WWCC-7685)
 Vol.5 ピアノ=小菅 優(同上 WWCC-7711)
 Vol.6 ピアノ=清水和音(同上 WWCC-7738)
 *Vol.4は、2011年度「レコード・アカデミー賞」【室内楽曲部門】受賞

●山崎伸子 チェロ・ソナタ・シリーズ(全10回)一次回の予定
 第9回「山崎伸子チェロ・リサイタル with 加藤洋之(ピアノ)」
 2015年11月20日(金)19時開演(予定)
 J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV1009
 シューマン:民謡の主題による5つの小品 作品102
 ヤナーチェク:おとぎ話
 ショパン:チェロ・ソナタ ト短調 作品65

*公演内容は変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

津田ホール 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24
 e-mail info@tsudahall.com URL http://tsudahall.com/

